

平成27年12月9日

## 北海道新幹線の収支想定

(億円未満四捨五入)

科目	平成28～30年度 平均(億円)	記事
収入	111	現在の海峡線利用者が全て新幹線に転移し、東京・函館間の鉄道シェアが現在の約1割から約3割になるものと想定した利用人員に、運賃および今回の上限認可申請を行った料金を乗じて試算
支出	160	
通常の新幹線 運営費用	80	他の整備新幹線の平均的なコストを基に算出した、日々の運行、車両や設備の検査、修繕等に関する人件費・経費
北海道新幹線 固有のコスト	34	他の新幹線には類が無い、北海道新幹線固有のコスト
青函トンネル 使用維持	21	排水ポンプの電力費や更新費など、長大な海底トンネルのための特殊な設備に関するコストや、特別高圧ケーブルなど既に約30年使用し老朽化している設備の維持、更新コスト
貨物共用走行	7	3線軌による複雑な設備の維持コスト、及び共用走行のため保守間合いが短くなり、作業を短時間で行うことに伴い割高となるコスト
短区間開業	6	約150km弱と短区間の開業にもかかわらず独立して保有しなくてはならない予備車両の保守コスト、及び運行指令業務に関わる設備や体制の割高分
貸付料	9	
減価償却費	33	設備投資(H5系車両4編成計40両約181億円、除雪車等保守用車等約31億、各種安全設備約20億円、その他約13億円)に係る減価償却費
諸税	1	設備投資した当社設備に対する固定資産税
事業報酬	3	設備投資に必要な調達資金の借入金利
差引損益	△48	

以上の新幹線事業単体での収支の他、新幹線開業に伴う並行在来線分離受益や関連線区受益を加え、収支均衡が図られる計画となっております。